

2014年度 第62回質量分析総合討論会
日本質量分析学会 男女共同参画 第1回ワークショップ開催報告
Report of “MSSJ Gender Equality Workshop #1” in
62nd Annual Conference on Mass Spectrometry, Japan

日本質量分析学会 男女共同参画推進委員会企画として2014年5月14日(水)17:30-19:30に、ホテル阪急エキスポパークにおいて、テーマ: ~男女が共に生きる取組みとは~質量分析関連企業におけるダイバーシティ・イニシアティブとして第1回ワークショップを開催したので報告します。

日本質量分析学会会長 荒川隆一先生の開会挨拶、男女共同参画推進委員会委員長 竹内孝江先生からの趣旨説明に続いて、企業で働く5名の方々から男女共同参画の取り組みを紹介していただきました。

まずはじめは、LECO ジャパン合同会社の金井みち子氏に、「質量分析と私が働き続けることができた理由」という題で発表していただきました。自身の自己紹介を含めた金井氏らしい表現で、ひとつの「働く」スタンスをまとめておられました。

二人目は、(株)JCL バイオアッセイの井上則子氏に、「多様な働き方への自主的な取り組み」という題で発表していただきました。女性が多い職場であることから、設立当初から行われている、他の会社より一歩進んだ数々の取り組みをご紹介されました。

三人目は、(株)日立製作所の久保健一郎氏に、「日立グループにおけるダイバーシティ推進の取り組み」という題で発表していただきました。男性ばかりの職場であった時代から、性別・国籍などが異なるさまざまな人で構成される時代への移り変わりとともに社内が変化している様子、また将来の方針についてもお話されました。

四人目は、(株)資生堂の本山晃氏から、「“Gender Equality Society”に向けた当社の取り組みのご紹介」という題で発表していただきました。化粧品の老舗である資生堂ならではの視点に立った非常に明快で先をいく考え方を示されました。

最後は、(株)島津製作所の和気弘明氏に、「質量分析機器メーカーで働く女性の事例紹介—マネージャーの立場から—」という題で発表していただきました。会社の体制という視点ではなく、実際に社内で働く女性の方々の事例を紹介されました。プレッシャーと戦いながらも女性が働き続けることができる職場の雰囲気が伝わる内容でした。

どの話も聞き入る内容であり、会場から質問が出て議論がおこるようなことはありませんでしたが、会場からの大きな拍手から充実した内容の発表であったと感じていただけたのだと思います。また、セッション終了時に、参加していただいた方々にアンケートにご協力いただきました。結果を集計し、今後の運営にいかしていきたいと思っています。

—日本質量分析学会男女共同参画第1回ワークショップ—

質量分析関連企業におけるダイバーシティ・イニシアティブ

(奈良女子大学¹・武庫川女子大学²・(株)JCL バイオアッセイ³・田辺三菱製薬(株)⁴・北海道大学⁵・奈良先端科学技術大学院大学⁶・(株)日立製作所⁷・大阪薬科大学⁸・大阪市立大学⁹・(株)資生堂¹⁰・神戸大学¹¹)

たけうちたかえ ほりやまし ずよ いのうえのりこ おおはしのりこ おかせいこ にしかわよしこ ひらばやしゆきこ ふじたけみ ほよ みやけりか もとやま
○竹内孝江¹・堀山志朱代²・井上則子³・大橋徳子⁴・岡征子⁵・西川嘉子⁶・平林由紀子⁷・藤嶽美徳代⁸・三宅里佳⁹・本山
あきら しのけんいち
晃¹⁰・吉野健一¹¹

MSSJ Gender Equality Workshop #1

The Diversity Initiative in the Industry Relative to Mass Spectrometry

(Nara Women's University¹, Mukogawa Women's University², JCL Bioassay Corp.³, Mitsubishi Tanabe Pharma Co.⁴, Hokkaido University⁵, Nara Institute of Science and Technology⁶, Hitachi, Ltd.⁷, Osaka University of Pharmaceutical Sciences⁸, Osaka City University⁹, Shiseido Co., Ltd.¹⁰, Kobe University¹¹)

○T.Takeuchi¹, S.Horiyama², N.Inoue³, N.Ohashi⁴, S.Oka⁵, Y.Nishikawa⁶, Y.Hirabayashi⁷, M.Fujitake⁸, R.Miyake⁹, A.Motoyama¹⁰, K.Yoshino¹¹

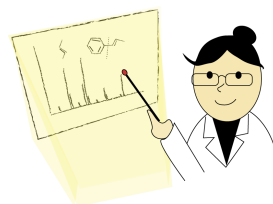
Keywords: diversity, gender equality, gender-free, industry relative to Mass Spectrometry

質量分析に関わる研究者や技術者が、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現させるための諸活動を行うため、日本質量分析学会の委員会の一つとして 男女共同参画推進委員会が 2012 年 12 月 1 日に発足されました。2013 年 9 月末において日本質量分析学会の個人会員（正会員＋学生会員）の男性対女性は 4 対 1、学生会員だけをみると 7 対 3 です。私たちは、質量分析に関連した分野において、男女共同参画の現状を把握するところからスタートしました。よりよい社会、すなわち**持続的な**男女共同参画社会を実現するためには、ワークライフバランスの問題を皆で考え協力する必要があると考えます。

今回は男女共同参画委員会が企画した最初のワークショップであり、質量分析関連分野の企業からのダイバーシティ・イニシアティブをテーマとしました。本ワークショップでは、企業から 5 名の方をお招きし、下記の講演題目で、国際社会で活躍するヒント、質量分析を拓いたロールモデル、企業での多様な働きぶり、企業における男女共同参画の取り組みなどをご紹介いただきます。どうぞ積極的にご参加ください。皆で考え、よりよい社会にしていきたいと思います。

～・～・～ プログラム ～・～・～

- 17:30 開会挨拶 荒川 隆一（日本質量分析学会 会長）
- 17:35 趣旨説明 竹内 孝江（男女共同参画推進委員会 委員長）
「日本質量分析学会男女共同参画第1回ワークショップ」について
- 17:40 金井 みち子（LECO ジャパン合同会社）
「質量分析と私が働き続けることができた理由」
- 18:00 井上 則子（株式会社 JCL バイオアッセイ）
「多様な働き方への自主的な取り組み」
JCL バイオアッセイは、製薬会社から医薬品の研究開発段階での非臨床・臨床試験における生体試料中の薬物濃度分析試験、及び製剤・原薬等の品質安定性試験を受託し、質量分析装置等を用いて分析業務を行っている。研究員は、分析業務の経験をより多く積むことで技術を身につけているため、研究員が長期にわたり業務に携わることができるよう仕事と家庭が両立できる環境整備に努めている。本講演では、弊社での働き方の取り組み状況について紹介する。
- 18:20 大久保健一郎（株式会社 日立製作所 研究開発グループ）
「日立グループにおけるダイバーシティ推進の取り組み」
2015 中期経営計画を推進する日立グループにおいて、ダイバーシティを推進する意義、方向性、及び現状について紹介する。
- 18:35 本山 晃（株式会社 資生堂）
「“Gender Equality Society”に向けた当社の取り組みのご紹介」
男女共同参画に取り組んできた資生堂リサーチセンターのこれまでの活動事例を紹介する。
- 18:50 和気弘明（株式会社 島津製作所）
「質量分析機器メーカーで働く女性の事例紹介—マネージャの立場から—」
質量分析機器メーカーを取り巻く、各種業務における女性の活躍事例を紹介する。機器 メーカーとしては、製品・応用（技術）開発から製造、販売、物流、サービス、サポートなどさまざまな業務が存在するが、主に製品・応用（技術）開発部門で働く女性の事例を紹介する。
- 19:05 総合討論
- 19:15 閉会挨拶 堀山志朱代（男女共同参画推進委員会 副委員長）



ワークショップの趣旨及びプログラム

討論会会期中に、このセッションについてさまざまな意見をいただきましたので一部を紹介します。

・「開催時間を考え直してほしい」---セッション終了後からのワークショップの時間帯でなくランチオンセミナーの時間帯であれば、家庭の事情などで夕方以降時間を気にして帰宅をしなければならない

人も参加しやすいのではないか。

・「趣旨説明があつたけれども、いったいどうしたいのかわからない」---学会としてどのようなスタンスを目指すのかが、明確にあつてこそそのワークショップだと思うが、今一つどうしたいのか見えてこないように思う。

・「子育てに限らず介護も視野に入れた内容になるといいのではないか。」---男女共同参画は子育てだけではなく親世代の介護の問題も避けては通れないと思う。

・「大企業では取り組めるけれど、中小企業では取り組みにくい。学会で取り組むとなるといろいろなところの方々がおられるのが難しい点となるだろう。」

・「本当にいろいろ話をさせていただけてよかった。今回のセッションを開催したからこそ、疑問点や問題点を聞くことができたと思う。」

これらの貴重な意見を参考に、次回はよりよい議論ができる場が提供できるようにしたいと思います。

今回お忙しい中発表をいただきました企業の皆様方、ご協力をいただきありがとうございました。また、遅い時間にも関わらず会場に足を運び参加いただきました皆様方、そして会場には行けなかったがアンケートにご協力くださった皆様方々にお礼を申し上げます。

最後に時間をやりくりし企画・準備から関わった委員及びその周りの方々お疲れ様でした。



ワークショップ開催風景